



おさかな瓦版

No. 72
2016.7

シリーズ：貝 第4回

アコヤガイ



ふーちゃんのトピックス

けんきゅうしょ あそ き
研究所に遊びに来てね

オリジナルTシャツを作りました

アコヤガイ

～美しい真珠をつくる貝～



📷 1 アコヤガイ

アコヤガイ(📷 1)は西太平洋やインド洋東部の、熱帯から温帯の海にいる貝です。水深10メートルくらいまでの浅いところにある岩などにくっついて、海水中の植物プランクトンなどを食べながら暮らしています。大きいものは、からが直径10センチくらいになります。

貝の中から、たまに「真珠」と呼ばれる宝石(📷 2)が見つかることは4000年以上も前から知られていました。日本でも昔からアコヤガイから真珠が採れることが知

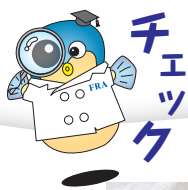


📷 2 真珠

られています。奈良時代に東大寺に建てられた「正倉院」には、アコヤガイの真珠を飾った宝物が納められています。その頃の真珠は天然のアコヤガイから偶然見つかる貴重なものでした(📷 チェック)。

いろいろな研究の結果、貝がらを作る細胞が体の中に入り込んだ時に真珠ができるらしいとわかりました。20世紀初めには、日本でアコヤガイに丸い真珠を作らせる技術が開発されました。

その技術を使って真珠の養殖が始まり、多くの人が真珠を身に付けて楽しめるようになったのです。



「夜光の名珠」と「御喰出し」

夜光の名珠：天然のアワビからも真珠が見つかることがあります。「夜光の名珠」と呼ばれる江戸時代のアワビの真珠は、碁石のような形をしていて直径が1.5センチ程もあります。

御喰出し：江戸時代、長崎県大村湾では大村藩によりアコヤガイが大切に保護され、天然真珠が採られていました。当時、アコヤガイを食べることができるのは殿様だけでした。天明2年(1782年)に殿様が食べたアコヤガイから見つかった真珠は「御喰出し」と呼ばれています。

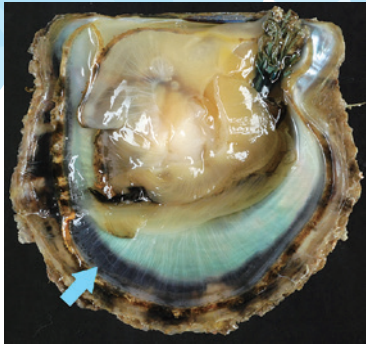
この2つの真珠は、三重県にある増養殖研究所で大切に保管されています。



📷 夜光の名珠



📷 御喰出し



📷 3 外套膜 (→の部分)



📷 4 真珠核とピースを埋め込む手術

アコヤガイにどうやって真珠を作らせるのでしょうか？ 貝がらの内側には「外套膜」(📷 3) という体の一部が密着していて、この表面にある細胞が貝がらを作っています。

アコヤガイやアワビなど真珠ができる貝の貝がらは、内側が美しく光っています。これはこれらの貝の貝がらを作る細胞の独特な働きによるもので、この性質を上手に利用して真珠を作らせるのです。

まずアコヤガイの外套膜を3ミリ角くらいに小さく切った“ピース”を、貝がらで作った小さい“真珠核”といっしょに、別のアコヤガイの体内に埋め込む手術をします(📷 4)。

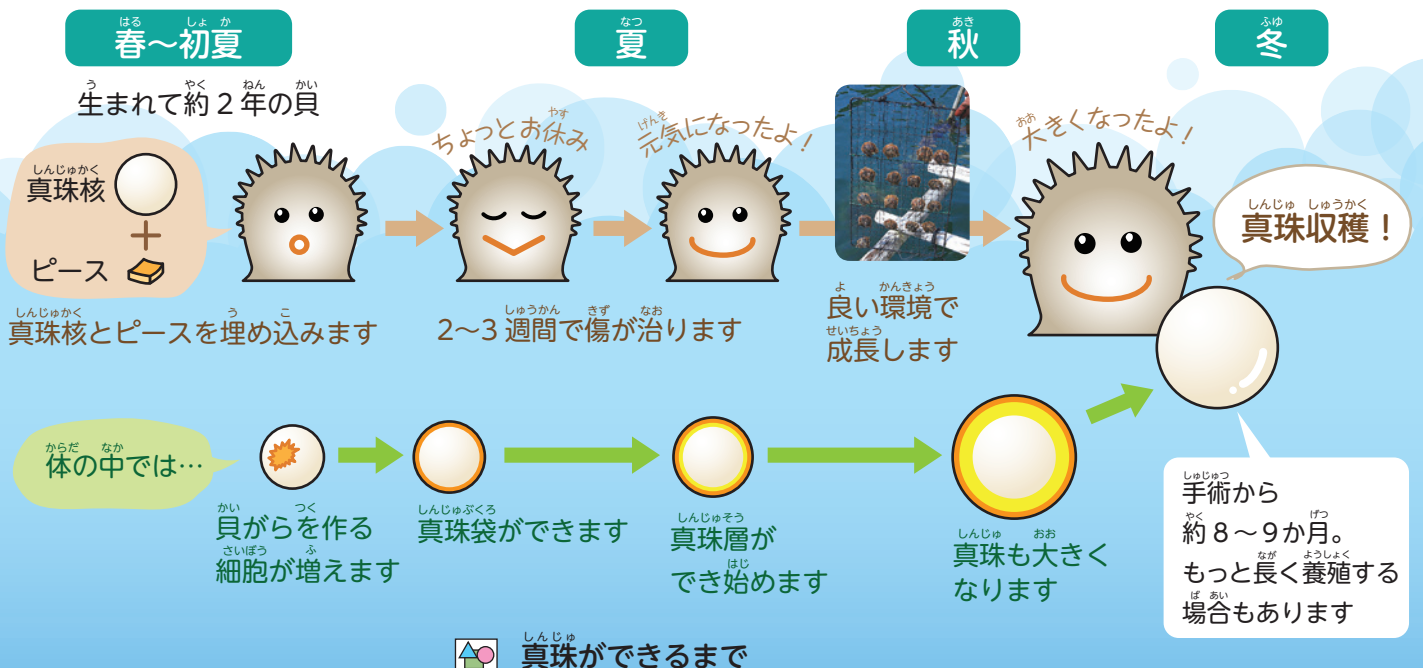
それを海で育てると、体内でピースの細胞が真珠核を包む袋を作り、その中で真珠核の表面に光沢をもつ真珠層を作り始めるのです(📷 4)。

美しい真珠を作るには、手術を上手に行うことが大切です。それとともにアコヤガイを元気に育てること、そのために海の環境を守ることも大切です。

真珠は、アコヤガイをよく知り、海を大切にすることからこそ得られる宝石なのです。



あわ まさひこ (淡路 雅彦)





ふーちゃんのトピックス

Fuchan's Topics

研究所に遊びに来てね!

研究所ってどんなところ? 研究者ってどんな仕事をしているのかな? 水産研究・教育機構は、毎年夏から秋にかけて研究所の一般公開をしています。研究施設の見学ができるほか、タッチプールやいろいろな体験コー

ナーもありますよ。楽しみながら親子で魚のことを勉強できます。ぜひ遊びに来てね。

くわしくは水産研究・教育機構ホームページの研究所のページを見てね。10月以降の一般公開の予定は次号でお知らせします。

一般公開のスケジュール

7月29日(金) 日本海区水産研究所 宮津庁舎 (京都府宮津市)
ウェブサイト ▶ <http://jsnfri.fra.affrc.go.jp/>

7月30日(土) 瀬戸内海区水産研究所 廿日市庁舎 (広島県廿日市市)
ウェブサイト ▶ <http://feis.fra.affrc.go.jp/>

増養殖研究所 玉城庁舎 (三重県玉城町)
ウェブサイト ▶ <http://nria.fra.affrc.go.jp/>

8月4日(木) 中央水産研究所 日光庁舎 (栃木県日光市)
ウェブサイト ▶ <http://www.fra.affrc.go.jp/nikko/>

8月20日(土) 東北区水産研究所 塩釜庁舎 (宮城県塩釜市)
ウェブサイト ▶ <http://tnfri.fra.affrc.go.jp/>

一般公開のようす



「さかなと森の観察園」
無料公開デー



みんなで遊びに来てね!



オリジナルTシャツを作りました

水産研究・教育機構オリジナルTシャツを作りました。デザインは2種類。「さかなと森の観察園」で7月9日(土)から販売しています。

【価格】1,200円(税込み)

【カラー】白・黒

【サイズ】FRA_T: Lのみ
ウナT: L・M



FRA_T



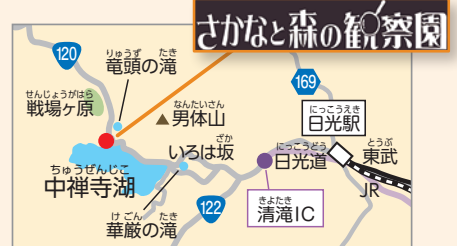
ウナT

ウェブサイトでも見れるよ ▶ <http://www.fra.affrc.go.jp/goods/>

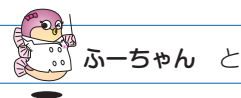
電頭の滝のすぐ近く!

さかなと森の観察園

〒321-1661 栃木県日光市中宮祠 2482-3
☎ 0288-55-0055



さかなと森の観察園



ふーちゃん と



ふっくん: あんじい仙人のもとで修行している研究員です

おさかな瓦版 No.72 (2016年7月発行)

編集・発行: 国立研究開発法人 水産研究・教育機構

質問の送り先・お問い合わせ先: 広報課

〒220-6115 神奈川県横浜市西区みなとみらい 2-3-3
クイーンズタワーB 15階

TEL. 045-227-2600 FAX. 045-227-2702

ウェブサイト <http://www.fra.affrc.go.jp/>

さかなやエビ、カニなどの水産動物や海藻のことでわからないことがあったら、広報課までハガキを送ってね。<聞きたいことの内容>、<学年>、<住所>、<名前>を忘れずに書いてね。ふっくんが「なんでもコーナー」でお答えします。

表紙写真



アコヤガイと英虞湾の真珠養殖場



水産庁の主催する魚の国のしあわせプロジェクトに参加しています



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。